

1. 発災と避難

○発災

平成23年(2011)3月11日(金)午後2時46分に本震が発生した。揺れは3分近く続き、石巻市は震度6強(桃生町)、6弱(門脇・鮎川・泉町・前谷地・鮎川浜・北上・相野谷)、5強(大瓜)を記録した。

気象庁は午後2時49分に津波警報(大津波)を発令した。最初の津波の予想の高さは6mであったが、3時14分に10m以上に変わった。

○津波の到達

津波の到達時刻は、市内の場所によって異なった。

陸上に被害が出るような大きな津波が、実際に何時何分に到達したのかは、市内の場所によって異なった。また、正確な記録は残っていない。

鮎川浜で最大波が観測されたのは、午後3時26分(気象庁)、北上地区の月浜で急激な水位上昇があったのは午後3時25分、門脇地区は午後3時40分から50分の間に来襲、東松島市野蒜では午後3時45分に急激な水位上昇があった。

以上のことから、大きな津波が襲来したのは、震源に近い牡鹿半島先端や、雄勝・大川・北上地区は、地震の発生から大体30分～40分後、市街地は約50分後であると推定される。

○津波の高さ

各地の正式な記録は、少ないが、鮎川浜では11mとされる。

牡鹿・雄勝・大川・北上の沿岸部で10m以上、荻浜から釜までは8m以上の波高となったものと考えられる。ただし、津波の高さは地形や建造物等により隣接する地域でも変わるため、もっと狭い地域では、これよりも高い場合も低い場合もあった。

たとえば、旧北上川の西岸の南浜町・門脇町は、津波の直撃を受け多くの家屋が流出したが、東岸の湊地区は海からの津波は、漁港の防波堤・工場群等により弱められたが、日和山に突き当たった津波が方向を変え、日和大橋を迂回した流れと合流し、その流れが直撃した地区は、全壊家屋が多かった。

さらに、川を遡上した津波や、水路を逆流して内陸まで浸水した場合もあった。



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲市役所前

○避難

市では、大津波警報受け、防災無線・広報車などで避難を呼びかけた。

市街地に大きな津波が来たのは、地震から1時間近く経ってからであり、本来であれば、十分に避難が可能な状況であったが、停電・余震・油断・渋滞など様々な要因が重なり、避難が間に合わず、津波によって多くの方が犠牲になった。

人口に対する犠牲者数を地区ごとに見ると、次表のとおりである。

地区	死者数	行方不明者数	左の計	震災前の人口	死者行方不明者の割合
本庁	2,287	202	2,489	113,054	2.2%
河北	412	43	455	11,946	3.8%
雄勝	166	70	236	4,300	5.5%
河南	23	5	28	17,240	0.2%
桃生	9	1	10	7,853	0.1%
北上	200	67	267	3,896	6.9%
牡鹿	84	31	115	4,533	2.5%
合計	3,181	419	3,600	162,822	2.2%



石巻市/東日本大震災アーカイブ宮城

▲十三浜崎山(相川保育所)

2. 救助

被災者の救助は、さまざまな形で行われた。

ひとつは、市民による避難者同士の助けあいの形で行われたもので、市内では多くのケースがあったと思われるが、件数や人数の把握は不可能である。

消防・警察・自衛隊・海上保安庁等により多くの救助が行われたが、大災害の混乱の中で行われた救助活動であり、また、各組織が協力して実施した救助もあることから、重複もあるため、実際の具体的な件数や人数の把握は困難である。

石巻地区広域行政事務組合消防本部においては、「地震発生当日の津波襲来後、中浦地区で多数の逃げ遅れ者がいるとの情報により1隊5人で出動し、救助ボートおよび付近に流れ着いた小船を使用し、車両および住宅に取り残された住民の救助活動を行った。また、非番参集者で編成した増強隊1隊も加わり、連携して救助活動を行った。翌12日からは緊急消防援助隊の応援を受け、広域管内で発生した救助に対応し、3月31日まで107件に出動、822人を救助(緊急消防援助隊を含めた総件数126件、救助人員1,390人)した。(東日本大震災記録集消防庁)」となっている。

警察は、被災地全体で 3,749人、自衛隊は、被災地全体で19,286人、消防は5,064人の救出数とされている。

石巻市内の救助をいくつか点描的に取り上げる。

市立病院は壊滅した南浜町にあった。津波で1階が壊滅し、手術途中の患者も含め約450人が病院内に孤立した。吊り下げでの救助は患者負担が多いことから断念し、隣接する文化センターの駐車場を臨時のヘリポートとして、DMATでの救助が平成23年(2011)3月13日に始まり、自衛隊ヘリも加わり、患者らは、南境の運動公園へ移送された。

発災から9日目の平成23年(2011)3月20日に門脇町で80歳の女性と16歳の孫が救助された。押しつぶされた家に閉じ込められ、救助を要請できず、また、家も元あった場所から流されたため、家族も見つけられなかったが、16歳の孫が屋根を破って救助を求め、警察に発見され、警察・消防により救助されたものである。

新館のみずほ第二幼稚園は、園児・職員らが屋上に避難し、体操用のマットなどで寒さをしのぎ、翌日海上保安庁のボートで救助され、海上自衛隊の護衛艦に収容された。護衛艦で2泊した後、ヘリコプターで石巻専修大学へ移送された。



石巻市/東日本大震災アーカイブ宮城

▲湊・吉野町



▲大門崎



▲大門崎山



石巻市/東日本大震災アーカイブ宮城

▲石巻市穀町



石巻市/東日本大震災アーカイブ宮城

▲石巻駅北側



石巻市/東日本大震災アーカイブ宮城

▲総合運動公園



石巻市/東日本大震災アーカイブ宮城

▲元倉・東中里

3. 避難所

津波により、多くの人がいろいろな場所に避難した。その結果、指定避難所以外にも多数の建物が一時避難所となった。

平成23年(2011)3月13日午後11時現在の避難所および避難者数は、市で把握できた限り、石巻地区94カ所36,761人、河北地区4カ所396人、雄勝地区7カ所2,896人、河南地区17カ所1,146人、桃生地区1カ所300人、北上地区4カ所946人、牡鹿地区8カ所1,116人の合計131カ所、43,559人であった。この中には公共施設のほか宗教施設、福祉施設、パチンコ店、スーパーマーケット、マンション、銀行、医院など多くの指定避難所以外の施設も含まれている。

また、今回はやむを得ないことではあったが、市役所、消防署、警察など、本来は救助や捜索などの業務を行うべき施設にも避難者がいたたことから、その対応が必要となり、本来業務に影響を与えることとなった場合もあった。

その後、避難所の統廃合および新設が行われ、平成23年(2011)3月31日午後8時では、石巻地区94カ所13,072人、河北地区4カ所1,257人、雄勝地区14カ所1,226人、河南地区6カ所672人、桃生地区2カ所111人、北上地区11カ所1,460人、牡鹿地区18カ所2,276人の合計149カ所、20,074人となった。避難者が減ったのは、概数ではなく、実人数を数えるようになったこと、自宅が無事でも帰宅手段がなかった人が帰宅したことによるものと考えられる。

避難所の数と避難者数の推移は、平成23年(2011)4月19日午後8時では、石巻地区72カ所7,654人、河北地区4カ所1,017人、雄勝地区11カ所1,226人、河南地区6カ所454人、桃生地区2カ所83人、北上地区11カ所693人、牡鹿地区14カ所1,422人の合計118カ所、11,932人となった。

平成23年(2011)5月2日午後8時では、石巻地区65カ所5,954人、河北地区3カ所922人、雄勝地区10カ所388人、河南地区5カ所450人、桃生地区1カ所67人、北上地区10カ所574人、牡鹿地区14カ所1,337人の合計108カ所、9,692人となった。

平成23年(2011)6月1日午後8時では、石巻地区59カ所4,456人、河北地区3カ所770人、雄勝地区8カ所317人、河南地区5カ所377人、桃生地区1カ所29人、北上地区9カ所456人、牡鹿地区13カ所835人の合計98カ所、7,240人となった。

平成23年(2011)7月1日午後8時では、避難所80カ所、避難者4,876人、平成23年(2011)8月1日午後8時では72カ所、2,975人、平成23年(2011)9月1日午後8時では56カ所1,814人となった。

平成23年(2011)10月11日に全避難所を閉鎖し、42世帯64人は、公民館等の待機所に移った。